

Express5800/54Wb(N8700-151,152,153,161,162,163,164)

OS 変更手順書 (Windows NT 4.0 Workstation)

はじめに

本装置は、出荷後最初に電源を ON すると Windows 2000 / Windows NT 4.0 のどちらかを選択してセットアップすることが出来ますが、この時選択しなかったオペレーティングシステムをインストールする場合は、別途オペレーティングシステムを購入する必要があります。

本書は、別途購入したオペレーティングシステムの CD-ROM 媒体を使用して、システムをセットアップする際の手順を記述しています。

注意事項

セットアップをはじめる前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

Service Pack の適用について

Express5800 では、Service Pack を適用することができます。Service Pack を適用する場合は、お客様で Service Pack CD-ROM を用意してください。

システムのアップデートについて

Express5800 のシステム構成を変更したときは、必ず Express5800 に添付の CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」からアップデートモジュールを展開し、適用してください。詳しくは、後述の「システムのアップデート」を参照してください。

MO 装置について

インストール時に MO 装置を接続したままファイルシステムを NTFS に設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。MO 装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ディスク構成について

- 「EISA ユーティリティ」と表示された領域について
ディスク領域に、「EISA ユーティリティ」と表示された領域が表示される場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。
- その他
 - 物理フォーマット後の 2GB 以上のハードディスクを 2 台以上接続すると、1 台目のハードディスクの容量が 1GB と表示されます。その場合は、インストールをいったん中断し、2 台目以降のディスクを取り外してください。その後インストールを行い、インストール終了後、2 台目以降のディスクを接続してください。
 - OS をインストールするディスクを接続している SCSI コントローラ以外の SCSI コントローラにディスクを接続する場合は、OS をインストールした後から行ってください。
 - 作成できるパーティションサイズは、4GB までです。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{array}{lcl} 200\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} & & \\ 200\text{MB} & = & \text{インストールに必要なサイズ} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} & = & \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \\ \text{ダンプファイルサイズ} & = & \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{array}$$

重要 ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できません。

例えば、搭載メモリサイズが 512MB の場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$200\text{MB} + (512\text{MB} + 12\text{MB}) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 1248\text{MB}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ」+「ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り振ることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ」 + 「ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) ユーザーズガイドの「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

(ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合はインストールに「必要なサイズ」+「ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。)

システム修復情報の更新について

オペレーティングシステムのデータが破損した場合に備えて、システムの修復が行えるよう「システムのアップデート」、および「各種ドライバのインストール」後は、必ず「システム修復情報の更新」をしてください。

システム修復情報には、コンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。

詳細な手順については、ユーザズガイドの「障害処理のためのセットアップ」の「システム修復情報の更新」をご覧ください。

ソフトウェア電源アンインストールについて

Windows NT 4.0 から Windows 2000 にアップグレードする場合は、あらかじめソフトウェア電源モジュールをアンインストールする必要があります。

以下に操作手順を示します。

(1) コマンドプロンプトを開く。

(2) 「powerdel」と入力してリターンキーを押す。

以下のメッセージが表示されます。

「ソフトウェア電源モジュールは Windows 2000 Upgrade に先だって
アンインストールする必要があります。
ソフトウェア電源モジュールのアンインストールを開始しますか(Y/N)?」

(3) アンインストールを行う場合は、<Y>キーを押してから、<Enter>キーを押す。

アンインストールが開始されます。

<Y>キー以外を入力するとアンインストールは中断されます。また、ESMPRO/ServerAgent
をインストールしていた場合は、以下のメッセージが表示されます。

「このシステムではソフトウェア電源モジュールは
ESMPRO/ServerAgent とファイルを共有しています。ソフトウェア電
源モジュールのアンインストールの前に、まず
ESMPRO/ServerAgent をアンインストールしてください。その後必ず
OS を再起動してから再度ソフトウェア電源モジュールのアンインス
トールを実行してください。」

メッセージに従って ESMPRO/ServerAgent をアンインストールして再起動後にソフトウェア
電源モジュールをアンインストールしてください。

(4) アンインストール終了後、システムを再起動する。

オペレーティングシステムのセットアップ

Windows NT Workstation 4.0 日本語版 (以降、Windows NT 4.0) の CD-ROM を使用してセットアップする手順を次に示します。

オペレーティングシステムのインストールに必要なもの

作業をはじめる前に次のディスクや説明書を用意します。

- ☐ EXPRESSBUILDER (CD-ROM)
- ☐ Windows NT 4.0 (CD-ROM)
- ☐ Windows NT 4.0 Service Pack (CD-ROM)
- ☐ Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER (または 1.44MB フォーマット 3.5 インチフロッピーディスク 2 枚)
 - 重要!! 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はシームレスセットアップを使用しないで Windows NT をインストールするときに必要となるフロッピーディスクで、Windows NT のインストールを始める前に作成しておく必要があります。
 - 次項の「インストールの準備」でディスクの作成方法を説明しています。
- ☐ ファーストステップガイド
- ☐ ユーザーズガイド

インストールの準備

インストールをはじめる前に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。

ヒント すでにこの装置用の「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をお持ちの場合は、再度作成する必要はありません。

Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER は、次の 2 通りの方法で作成することができます。

● EXPRESSBUILDER で Express ワークステーションを起動して表示されるメニューから作成する

Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER を作成するために使用できるコンピュータが Express ワークステーションしかない場合は、この方法で作成します。ただし、Express ワークステーションが Windows NT 4.0 で動作できる場合は、この後の「マスターコントロールメニューから作成する」でも作成することができます。

次の手順で作成します。

- 1 3.5 インチフロッピーディスクを 2 枚用意する。
- 2 Express サーバの電源を ON にする。
- 3 Express サーバの CD- ROM ドライブに CD- ROM 「EXPRESSBUILDER」をセットする。
- 4 CD- ROM をセットしたら、リセットする (<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す) か、電源を OFF/ON して Express サーバを再起動する。
 - CD- ROM からシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDER が起動します。
- 5 「ツールメニュー」から「サポートディスクの作成」を選択する。
- 6 「サポートディスク作成メニュー」から「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER」を選択する。
- 7 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER #1/#2」の2枚のフロッピーディスクが作成されます。作成した「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

- **マスターコントロールメニューから作成する**

マスターコントロールメニューは、次のオペレーティングシステム上で起動します。

- Windows 95
- Windows 2000
- Windows NT 4.0
- Windows NT 3.51

*Windows 98 では使用できません。

上記のオペレーティングシステムで動作しているコンピュータを使用できる場合は、マスターコントロールメニューから Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER を作成することができます(Expressワークステーションも含まれます)。

次の手順で作成します。

- 1 3.5 インチフロッピーディスクを2枚用意する。

- 2 Windows 95 または Windows NT 3.51/4.0 を起動する。

ヒント Windows 98 では使用できません。

- 3 CD- ROM 「EXPRESSBUILDER」をCD- ROM ドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが起動します。

ヒント Windows NT 3.51 ではメニューが自動起動しません。エクスプローラなどでCD- ROM 内の「¥WINNT¥BIN¥MAKEFD¥400J¥MAKEOEM.BAT」を起動し、手順5へ進んでください。

- 4 [2nd](Setup Tool)を左クリックし、[OEM ディスクの作成]をクリックする。

ヒント 右クリックで現れるポップアップメニューでも同様の操作ができます。

- 5 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER #1/#2」の2枚のフロッピーディスクが作成されます。作成した「Windows NT 4.0 OEM- DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows NT 4.0 のインストール

次の手順に従ってインストールします。

システムの電源 ON

- 1 システムの電源を ON にする。
- 2 Express ワークステーションの CD-ROM ドライブに Windows NT CD-ROM をセットする。
- 3 Windows NT CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ON して Express ワークステーションを再起動する。

メッセージに従って作業を続けてください。

インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

重要!! セットアップの途中で、Windows NT をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。この時に表示される 16MB の不明領域は、Express5800 特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。

作業を続けていくと Windows NT のファイルをインストールするディレクトリ名を入力する画面が表示されます。ディレクトリ名を入力して<Enter>キーを押します。Windows NT のファイルがハードディスクにコピーされます。

Windows NT セットアップ画面での設定

- 1 ファイルのコピーを終了後、メッセージにしたがってフロッピーディスクと CD-ROM を取り出す。

システムを再起動すると、[ディスクの挿入]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 Windows NT CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入する。
- 3 CD-ROM ドライブのアクセスランプの点滅が終わってから、[OK]ボタンをクリックする。

以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ヒント ・セットアップの途中で「システム修復ディスク」を作成する画面が表示されます。ここで「システム修復ディスクを作成する」にしても、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合は、1 枚のフロッピーディスクでは入りきらなくなることがあります。
この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。
Windows NT では、ハードディスク上にある修復情報を参照してシステムの修復が可能ですので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。
・セットアップの途中でネットワークドライバのインストールを行うステップがあります。セットアップが完了した後もインストールすることもできますが、セットアップ中にインストールすることをお勧めし

ます。セットアップ中でのネットワークドライバのインストール方法とセットアップ後のインストール方法は、「ネットワークドライバのインストール」で説明しています。参照してください。

アップデートモジュールの展開

システムをアップデートする前に、アップデートモジュールをハードディスク上に展開します。以下の手順でアップデートモジュールを展開し、以降の「システムのアップデート」および「ドライバのインストールと詳細設定」を実施してください。

ヒント 既にハードディスク上にアップデートモジュールを展開済みの場合は、展開しなおす必要はありません。

- 1 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
- 2 CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM ドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されますが、何もせず終了してください。
- 3 Windows NT エクスプローラを起動し、<CD-ROM ドライブ>:\WINNT\400J\NT40INST.EXE を実行する。
「Winzip Self-Extractor – NT40INST.EXE」ダイアログが表示されます。
- 4 [Unzip to folder]ボックスにアップデートモジュール展開先パス (例: C:\) を入力し、[Unzip]ボタンをクリックする。
指定したパスにモジュールが展開します。
上記例では、C:\NECINST 以下が展開されます。以降、このパスに展開したものとして記述します。
- 5 CD-ROM ドライブから「EXPRESSBUILDER」を取り出す。

システムのアップデート

システムのセットアップ完了後、必ず以下の手順でシステムをアップデートしてください。
ハードディスク上にアップデートモジュールを展開していない場合は、前項の「アップデートモジュールの展開」を参照し、アップデートモジュールを展開してください。

重要!! システム構成を変更した場合も再起動する前に必ずシステムのアップデートをしてください。
(システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]ボタンをクリックし、システムをアップデートしてください。)
修復プロセスを使用してシステムを修復した場合も必ずシステムをアップデートしてください。

- 1 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
- 2 Windows NT エクスプローラから、「C:¥NECINST¥UPDATE¥update.exe」を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。
続行すると、Service Pack CD-ROM を要求されます。
メッセージに従ってアップデートを続行してください。
- 3 [コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてシステムを再起動させる。

ネットワークドライバのインストール

標準装備のネットワークのドライバは Windows NT のインストール中にインストールすることをお勧めします（Windows NT をインストールした後でもインストールできますが、インストール後にシステムのアップデート（前ページ）をやり直さなければ正しく動作しません）。

オプションのネットワークボードのドライバについてはこの後の「オプションのネットワークボードのドライバ」を参照して、Windows NT のインストールが終了した後にインストールしてください。

標準装備のネットワークのドライバ

標準でネットワークポートを 1 つ用意しています（装置背面にあります）。このネットワークポートを使用するために次の手順に従って専用のネットワークドライバをインストールします。

ドライバをインストールする際には、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が必要です。前述の「インストールの準備」を参照してあらかじめ作成してください（すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません）。

● OS のインストール中にネットワークドライバをインストールする

Windows NT のインストール中に「[検索開始]」をクリックするとネットワークアダプタの検索を開始します。」というメッセージの入ったダイアログボックスが表示されます。

1 [一覧から選択] ボタンをクリックする。

[ネットワークアダプタの選択] ダイアログボックスが表示されます。

2 [ディスク使用] ボタンをクリックする。

[フロッピーディスクの挿入] ダイアログボックスが表示されます。

3 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。

4 「A:¥ I559」と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

[OEM オプションの選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 [Intel(R)PRO Adapter] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする。

6 [次へ] ボタンをクリックする。

プロトコルやサービスの追加 / 削除を行うウィンドウが表示されます。必要に応じてプロトコルやサービスを追加 / 削除してください。

以降は、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

重要!! インストールしたネットワークドライバは、転送速度/Duplex モードの設定が必要です。OS のインストール後に、[コントロールパネル]の[ネットワーク]をダブルクリックした後、ネットワークドライバのプロパティダイアログボックスを表示させ、[Advanced]タブをクリックし、[Speed]と[Duplex]を HUB の設定値と同じ値に設定してください。

- **OS のインストール後にネットワークドライバをインストールする**

- 1 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
- 2 スタートメニューから [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする。
[ネットワーク] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [アダプタ] タブをクリックし、[追加] ボタンをクリックする。
[ネットワークアダプタの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [ディスク使用] ボタンをクリックする。
[フロッピーディスクの挿入] ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブにセットする。
- 7 「A:¥ I559」と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[OEM オプションの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 [Intel(R)PRO Adapter] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする。
[ネットワーク] ダイアログボックスに戻ります。
- 9 [プロパティ] ボタンをクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
- 10 [Advanced] タブをクリックし、[Speed] と [Duplex] を HUB の設定に合わせる。
- 11 [OK] ボタンをクリックする。
- 12 [閉じる] ボタンをクリックする。
プロトコルの種類などによっては、ここでネットワーク情報の入力が必要になります。
- 13 ネットワークアダプタのインストール終了後、「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #2」をフロッピーディスクドライブから取り出す。
- 14 [ネットワーク設定の変更] ウィンドウで [はい] ボタンをクリックし、システムを再起動する。
- 15 前述の「システムのアップデート」を参照して、システムをアップデートする。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード (LAN ボード) を使用している場合は、ボードに添付されている説明書を参照してドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールと詳細設定

システムをアップデートして再起動後、各種のドライバのインストールとセットアップを行います。ユーザズガイドを参照して各種デバイスドライバのインストールや、障害処理のためのセットアップを実施してください。